

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200101		
法人名	セレンディップ株式会社		
事業所名	グループホームはなえみ		
所在地	岐阜県関市巾2丁目180番地		
自己評価作成日	令和6年1月8日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2190200101-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様やご家族様が笑顔でいられるよう、自分らしく安全で安心、健康な生活が継続出来るように、身体能力維持向上に努め望む事が出来るよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理学療法士でもある代表をはじめ、全職員の総力を挙げた取り組み結果として、入居時は車椅子であった利用者が歩行可能になった事例がある。自立支援を基本に利用者のケアを実践したことが、介護のプロとしての自信とやりがい、意識向上にも繋がっている。代表と管理者は「誉めて伸ばす」をモットーに、職員の長所を見出し、職員同士も互い認め合いながら、良好な人間関係の構築がなされている。現在、介護業界では人手不足と言われることが多い中で、ホームへの就職希望者が多いのも珍しい。職員同士の仲が良さが感じられ、全体の雰囲気も明るく、利用者の表情も明るい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様と職員が笑顔でいられるよう努力しています。利用者様の状態把握等に努めて情報を集積し分析しています。自身の力で動けるよう必要最小限の介助を行い身体機能の維持改善を常に念頭において支援させて頂いています。	職員は出勤時に理念を確認している。会議の際の確認事項でもある。職員は、常に利用者の身体能力維持向上を考え、ホームに入居しても自宅復帰を目指して日々、支援している。実際に車椅子生活であった利用者が、歩けるようになった事例もあるなど、自立支援に特に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り地域の情報を回覧板を回して頂く事により知ることが出来ています。月一回は施設の外で活動する事を出来るだけ行い地域に触れ合うことに配慮しています。地域の避難訓練に参加しています。	地域の自治会に加入し、避難訓練にも参加している。コロナやインフルエンザの感染拡大状況を見ながら、徐々に事業所のイベント再開も検討している。近隣住民から野菜の差し入れが有ったり、介護相談に来所されることもある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し民生委員や民生委員会会長、市役所職員、利用者家族代表などに参加していただき意見交換をしている。	運営推進会議は隔月で開催し、市役所職員や民生委員、利用者も参加して意見交換をしている。事業所の現状報告について、委員からは運営についての賛辞の声を聞くことも多く、職員の意欲につながっている。	運営推進会議は事業所からの報告を中心に行われている。活動報告や取り組みについて、委員からのコメントやホームについての感想、感謝の言葉等も議事録に掲載するなど、職員や家族にも伝える工夫に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	様々な疑問点などは高齢福祉課や包括支援センターに意見を伺いながら運営している。	行政の担当者とは、運営に関する様々な疑問点など、何でも気軽に相談ができる関係である。直接、窓口に出向いたり、電話・メール等で随時意見交換している。行政主催の研修があり、対面やズームで参加をしている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をするほどの利用者様はご利用になっていませんが、施設内を徘徊などされる方は常に職員同士連携をとり利用者様の意向に沿った過ごしやすい環境作りを心掛けている。	運営推進会議の後に身体拘束等適正化検討委員会を開催している。重症者のケアは、拘束に繋がらないよう常に2名で行うこととし、職員同士で最善の支援方法を話し合いながら実施している。利用者が自由に庭に出ることが出来るよう、玄関は施錠せず、常に職員が目配りできる体制で見守っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴の際には身体確認等入浴担当者が毎回行い、異常など確認している。居室でのおむつ交換も扉を完全に閉めることなく行うようにしている。職員が怪我への注意を払うとともに虐待の抑止力になっている。	虐待防止委員会は、身体拘束等適正化検討委員会と同時開催している。虐待発見時の対応や、職員間の連携の重要性などを学びながら、情報共有している。今後、虐待防止についても重要事項に追加していくとしている。入浴支援の際には、不自然な痣など異常がないか観察している。	

岐阜県 グループホームはなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については職員それぞれが勉強できるように資料やマニュアルなどを作成し配置しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分説明させていただきますが利用後に再度、要望や不満な点はないか聞き取りを行うようにしています。入所直後1週間程度は生活の様子などこまめに連絡し疑問点や不安点など話し合うようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に意見を聞き施設運営に生かしています。会えない家族に対しては電話やメールなども駆使し意見をきき取るようにして施設運営に反映できるようにしています。	家族の面会時に意見や要望を聞き、遠方の家族には電話やメールで聞いている。昨年のも目標でもあった毎月発行の通信には、利用者の写真を増やしたり、コメントを添えるなど、家族の安心につなげている。車いすの利用者が歩けるようにと、家族の願いが叶うよう支援している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に様々な職員に声かけを行うようにしています。実際に聞かれる情報は他の職員と一致しているか情報を集めるようにしています。	施設長や管理者も現場に入り、常に職員の意見を聞いて運営に活かしている。職員のアイデアから出た行事も取り入れている。また、リハビリについては、リスクを抱えながらも職員が一丸となって、積極的に取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	処遇改善加算・ベースアップ加算を取得し職種により給与水準などを変化させているほか、それぞれの職員の能力をいかした行事など推奨しています。また、職員からの提案があった行事については、全て出来るよう配慮しています。	職員の休憩場所があり、交代で休憩時間を確保している。労働規約や給与体制を整えており、口コミによる就職希望者が多い。外国人技能実習生も受け入れている。全般的に職員の表情が明るく、職員ヒアリングでも本当に楽しそうな印象を受けた。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望の講義を聞きたい場合は職員間で勤務交代ができるようにしています。	代表は「褒めて伸ばす」をモットーにし、職員を育てている。代表は全職員と感謝の気持ちで接し、職員もそれに応えながら、資質向上に向けて取り組んでいる。また、IT導入については、動画研修を取り入れた事で、どの職員も熱心に向き合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表は地域以外の他の施設の方とも直接交流をし意見交換をしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場において、職員が常に行うのではなく、利用者様とともに準備をしたり洗濯や掃除をしていただいています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様には意見や要望を聞き意向に合わせて自宅に帰宅したり外出したりしています。家族への電話・メール連絡なども行っています。	今までの自宅生活の様子を家族から聞き、できる限り、同様の生活が継続できるよう、TVや新聞など自由に見られる環境にしている。感染予防対策を行った上で、一時帰宅や家族との旅行も許可している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングばかりでなく、常に家族や本人に聞くようにしています。1カ月に1回のモニタリングをするようにしていますが、変化に応じて変更するようにしています。	本人及び家族の意見・要望を聞き取り、日々の介護記録や担当職員の意見を参考に、介護計画を作成している。大きな変化が見られた時は、主治医と相談しながら、その都度計画の見直しをしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別には作成している。職員間で連絡が取れるよう連絡帳などを作成し、様々な事を記載し情報を共有できるように取り組んでいます。	日報はその都度手書きし、記録漏れの無いようにしている。日々の気づきもすべて申し送りにて再確認している。ケアマネジャーも現場に関わっており、毎日、利用者の状態を把握した上で記録を行い、ケアプランとケアの実践を連動させることができている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況やご家族の状況に合わせて外出や面会を行っています。急な自宅での宿泊にも対応しています。現在コロナ禍において感染拡大防止対策などで協力してもらっています。	日頃から、近隣住民の介護に関する質問にも応じている。利用者から買い物の要望があれば、家族にも伝え、職員と一緒に買い物に出かけている。利用者の体調が急変した際には、職員が付き添い受診している。	

岐阜県 グループホームはなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設のためのサービスにとどまることなくインフォーマルな資源も活用し支援させていただく事を心掛けています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時など素早い対応ができるように病院名と診察券のID番号や診療科、既往歴などをまとめた用紙に記入していただいています。直接主治医に相談し情報や注意事項、要望を伝える事もしています。	入居時に、協力医または今までのかかりつけ医を選択することができ、主治医の往診も可能であることを説明している。歯科医の往診も受け入れている。協力医及び利用者の主治医、訪問看護と連携しながら、何でも相談できる体制ができている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院後に利用する場合などは、各病院の相談員や看護師など担当部署に出向き情報交換を行うようにしています。また退院後利用状況など現状を主にご家族に簡単に報告することもしています。病院にも都度連絡しています。	利用者の急な体調変化の際には、救急隊員に、利用者の状態を緊急シートで報告し、職員が付き添っている。病院と相談しながら、早期退院を目指して支援している。退院後に事業所でもリハビリが出来る事や対応能力を説明し、退院カンファレンスで話し合っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けたご家族との話し合いをするように、同意書など取るようにしています。生命危機の際は病院対応するようにしています。	看取りは現在行っていない為、訪問看護師と連携しながら終末期のケアに努めている。延命治療を必要とするか、利用者本人の意思確認が不明な場合は、家族とよく話し合い最善の方法を考えている。	最近、看取りに近い症例が増えてきており、今後、訪問看護と連携しながら、看取り体制を整えていきたいと考えている。全職員が安心して看取りに望めるよう、研修を重ねていくことを期待したい。
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡体制を整えています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には地域に開放するなど、行政からの依頼で引き受けています。また、施設においては玄関が開放でき避難しやすい環境になっています。また、歩行困難の方の場合は車椅子やベッドのままでも避難できるようスロープも整備しています。	地震想定での訓練を実施している。災害時には、地域住民に事業所を開放する等、行政から依頼されている。昨年は自治会の避難訓練にも参加し、近隣住民の協力を得ることができている。夜間の災害は、隣接している法人の小規模多機能事業所職員との連携もできる。	事業所単独の火災などが発生した場合、隣接の小規模多機能事業所以外にも、近隣の集会所などが確保できるよう自治会に呼びかけ、協力を得られる体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉かけ、対応は十分に配慮して行うようにしています。	接遇研修を定期的実施し、馴れ合いによる、不適切な言葉遣いをしないよう努めている。利用者一人ひとりの言動や行動に気を配り、常に尊厳を守った声かけと対応を心がけている。居室での介助の際は、密室とならないよう、入口を少し開けて行うようにしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての事柄に対して常に対応前後の利用者様の反応を観察し利用者様の希望に沿うように支援させていただいています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の業務を最優先することなく、行事などは必ず利用者様に参加不参加など希望を確認し、行うようにしています。また、体調管理も行い体調なども参加不参加の相談材料とさせていただいています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養の関係もあるので食事が好きなもので偏らないように配慮しているが、アレルギーのある食材はもちろん提供しないように注意して配膳するようにしています。また嫌いな食材に関しては別のメニューにして出来るだけたくさん食べられるような配慮をしています。	栄養バランスを考慮した献立表と食材が業者から届き、職員が手作りしている。イベント食の際には、利用者と共に近くのスーパーに買い出しに行っている。職員がタコ焼きの店に行き、作り方を学んで事業所で作るなど、利用者の食欲増進につながるよう工夫しながら、食べる楽しみを増やしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については必ず摂取量などチェックしています。食事量など減った場合は、家族とも相談し食事状況把握に努めるようにしています。食材の加工も出来るだけ食べやすいように工夫しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うようにし支援をさせてもらっています。希望の方には歯科医に往診に来ていただくなど専門の方からの情報も頂くようにしています。	利用者は、毎食後にリビング横の洗面台で歯磨きをする習慣ができています。自分でケアが困難な利用者は、職員が手伝っている。夜間の義歯の管理は職員が預かり、洗浄剤を使っての清潔保持及び紛失防止に努めている。	

岐阜県 グループホームはなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの失敗によることのショックがないよう、その人に合わせたトイレ誘導を行うようにしています。定期的な声掛けも実施しています		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は施設の都合である程度が決められているが、入浴の順番や介助や援助の方法など出来るだけ本人の希望に沿うように配慮しています。入浴剤など入れてお風呂の感じを演出するとともに、どうしても拒否される方の場合は足浴や清拭なども実施するなど配慮しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝床が変わると寝られないという方などは、自宅で使用している枕を持って来て頂き出来るだけ寝やすい環境を作っています。日中の休息に関しても畳みベッドを取り入れるなど休みやすい環境を整えるよう努力しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・看護師などを中心に管理し職員が間違える事のないよう分かりやすく管理できるよう工夫している。薬剤の変更も常に情報を頂くようにし声かけを怠らないようにしています。	薬剤師が処方変更の都度、副作用などを説明し、職員には、誤薬や飲み忘れの無いよう服薬支援を徹底している。特に副作用の強い薬は、頓服を処方してもらい、利用者の状態確認を怠らないようにしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意なものや好きな事を行うようにしています。運動などが主流となり日々体を動かすことや楽に楽しめることなど工夫しています。	一人ひとりの生活歴や残存能力を活かして、畑仕事や洗濯物たたみなど、仕事の役割分担をするなど、サポートをしながら生きがいに繋げている。掲示している共同作品も、個々に出来ることを分担して完成させている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や買い物などに外出するように計画しており季節ごとの行事が増えてきている。	コロナ禍であっても、日常的な外出は支援していたが、今は、家族と一緒に出かけ、外食も可能としている。近隣の散歩や季節の花見、紅葉見学にも出かけ、利用者の気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホームはなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていませんが、自身でほしいものなど買い物をするようにしています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は利用者様の要望に応えるようにしています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に適宜掃除をし清潔を保つようにしています。その他にも季節などが感じられるような置物や掲示物など配置しています。室温などにも気を配り調整するようにしています。	廊下が広く、屋内でのゲートボールやボーリングゲーム等、工夫しながら利用者のレクリエーションの場となっている。オープンキッチンとなっており、利用者も調理の様子を見ることができ、食欲増進に繋がっている。機械浴は無いが、家族の了解を得ながら、シャワーチェアでの対応も行っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室があり、本人に聞くなどして一人の時間が作れるよう配慮しています。希望者は自室にテレビを配置できるよう環境設定がなされています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊室には施設の寝具が常備してあるが、使い慣れた枕など使用したい方は配慮しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の能力を維持向上する意味でも施設内は自宅に似たような環境作りに配慮している。全ての家庭で能力を発揮出来るような環境になるよう配慮をしています。		